まえがき　7

第Ⅰ篇　初期ブルジョア国家の諸形態

第1章　イギリス名誉革命体制＝議会主義的君主政――18
(1)名誉革命直後の国王政府の時代　19
(2)政党内閣の形成の時代　26
(3)国王政府の復活から政党内閣の確立への推転の時代　31

第2章　フランス第一帝政＝ボナパルティズム――40
(1)ブリュメールのクーデタから統領政へ　40
(2)帝政　46
(3)ボナパルティズムの再定義のために　52

第3章　フランス復古王政＝君主主義的立憲政――64
(1)復古王政の史的過程　64
(2)復古王政の構造　70

第4章　ドイツ・ビスマルク帝国＝立憲政府政――77
(1)ビスマルク帝国の構造　77

(2)ビスマルク帝国の歴史　86
(i)・八七一～七七年、自由主義勢力との協調　86
(ii)・八七八～九〇年、保守主義化　92
(3)ボナパルティズムか君主主義的立憲政か、それらとも別の体制か　98

第Ⅱ篇　明治国家に関する諸論の批判的検討

第1章　天皇制絶対主義論の錯誤　112
中村政則「近代天皇制国家論」批判――

(1)「三二年テーゼ」への盲従　112
(2)国家論の根本的過誤　120
(3)スターリ主義の紋章　127

第2章　ボナパルティズム説の欠陥　135

(1)服部之総のボナパルティズム説　135
(2)上山春平のボナパルティズム説　141

補論1　『明治維新の新考察』に対する書評へのリプライ　145

(1)江戸時代とのつながりに関して　145
(2)明治維新の時代区分に関して　148

(3) 世界史と一国史に関して 151
(4) 後進国の近代化に関して 153
補論2 明治維新史研究の現況と国民国家形成論について 157
第Ⅲ篇 明治国家の分析
第1章 分析の方法的視座 168
(1) 複合的発展 168
(2) 自由主義(化)と民主主義(化)の区別 172
(3) 政治(体制)・国家(体制)・憲法(体制) 178
第2章 立憲国家の建設 188
(1) 帝国憲法の制定過程と国家機構の改編拡充 188
(2) 政党の誕生と政治社会の形成 196
(3) 帝国憲法の構造と特徴 205
(4) 初期議会における藩閥政府と民党の攻防 213
第3章 国民国家の造型 226
(1) 日清戦争 226
(2) 藩閥と政党の協調へ 235

(3) 産業資本主義の形成 244
(4) 日本型国民国家の造出 251

第4章 天皇制国家の相貌 263
(1) 新国家的統合のシンボル 263
(2) 天皇制の定立 271
(3) 天皇の実際政治への関与 277
(4) ナショナル・シンボルへ 285

終りに 明治国家は君主主義的立憲政か立憲政府政か 297

あとがき 311

索引 巻末